

うどん・しゃぶしゃぶ・もつ鍋と夜のギンザ…

# ニッポン初体験記

ヨーロッパで1番人気の画家  
アントン・モルナーさん<sup>41</sup>



今月23日までフォーシーズンズホテル内のギャラリー・プロバで個展が開かれている



(11月9日)  
個展の会場であるフォーシーズンズホテル  
椿山荘東京にあるギャラリー・プロバに来場。  
ニューヨークで彼の絵を見たという女性に熱  
心に解説してみせる。

初めてのニッポンで、うどんやしゃぶしゃぶ、もつ鍋にも挑戦。どれもきっちり平らげた。なによりも好奇心旺盛で滞在最終日の夜、鉄板焼きのお店では31枚もの写真を撮りまくるし、スーパーでは果物の値段の高さと食材の豊富さに驚いていた。それでも「日本は昔

からの文化と現代が調和していて素晴らしい。必ずまた来ます」という言葉を残して帰国の途についた。

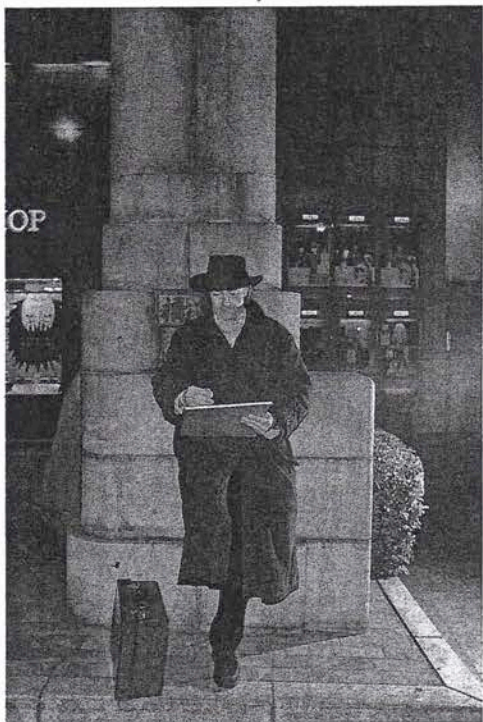
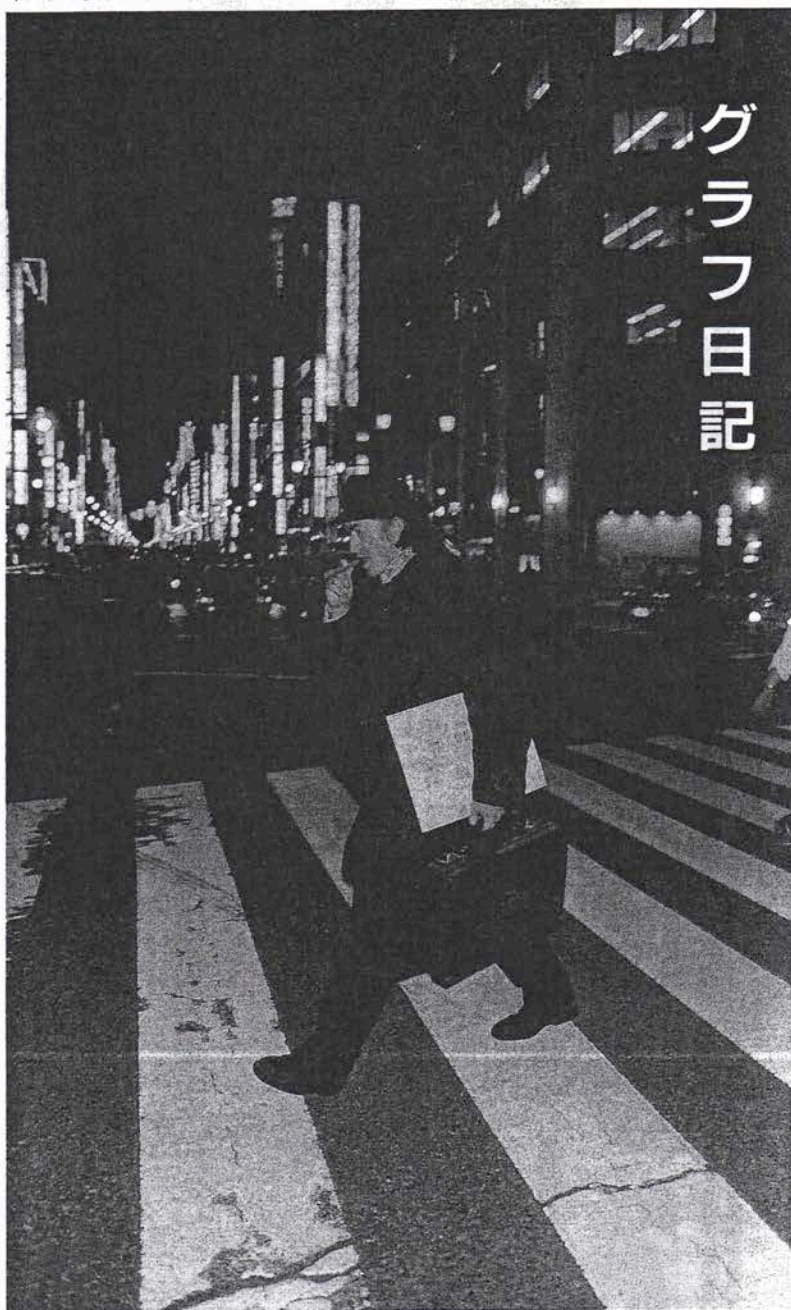
作品の周りの縁は、絵にニュートラルな部分を持たせたいなどの理由から





# グラフィック日記

ギンザの夜景、ネオンの美しさに感動しきり。「ギンザは眠らない街だね」



お気に入りのギンザの夜景をスケッチ。ポーズもきまっています。

初めての和食なのに箸の扱いに慣れているのは、日本以外の国で和食の経験があるから



とにかく写真を撮りつけていた。厨房に入り込んで撮影する姿も……

# スーパーリアリズムアーティストの



小誌編集部で靴を机がわりにサラサラとスケッチするアントン。簡単そうに見えるけど……

今、ヨーロッパで一番熱い注目を浴びている画家が日本で開かれる個展のために初来日した。その名はアントン・モルナー。41歳でハンガリー生まれ。22歳の時にハンガリー唯一のファインアートアカデミーに25倍の競争率のなか合格。その後も幾何学や解剖学などの分野で修士号を取得している。10年前にフランスに移住。ニッポン初体験記のほどは……  
(11月6日)

朝日時半に成田に到着。午後3時過ぎに小誌編集部を訪問。早速、編集部内をスケッチ。「時差で少し頭がボーッとしているけど日本のいろんな景色を見ていたら気持ちが高ぶってきたよ」と目を輝かせた。

ヨーロッパでは、その甘いマスクでマダムキラーと呼ばれているようですが？

「別にマダムだけじゃない若い子も年配の人もたくさんの方が僕の絵のファンだよ」とさりりとかわす。いやいやそうじゃなくて……

「彼の絵には彼の人柄が現れているから、優しい人柄を感じてたくさんの方がいると思います。もちろんハンサムだしね」と横にいた奥様がさかさずフォロワーをいれた。

インタビュアーのあと、「美々卯」で天ぷらうどんをすすめる。初めての日本食には大満足の様子。お茶のおかわりまでしていた。